



校訓「至誠」

母校 元小

学校だより
令和7年11月
川口市立元郷小学校
児童数：435名



元郷小HP

至 誠

校長 根本 広徳

一気に秋が深まり、12月の気温になる日も出てきました。季節が目まぐるしく移ろいゆく中での学校生活ですが、先日、20日、21日で、6年生は日光へ修学旅行に行ってきました。初日、最初の華厳の滝は、あいにくの濃霧でかろうじて滝壺はうっすら見えるものの、あとは毎秒3トンの瀑布の音だけが響き渡っていました。その後の戦場ヶ原のハイキング、湯滝は晴れ渡り、清々しい秋の風を感じながら、子供たちは、色づいた紅葉など自然の美しさに魅了されたようでした。ホテルでは源泉で癒され、豊かな食事を堪能しました。また、ふくべ細工体験も思い出深いものとなりました。2日目は、竜頭の滝の散策後、いよいよ日光東照宮へ。子供たちは、ガイドさんの説明を聞きながら自分たちが調べたことをもとに、学びを深めていました。



日光東照宮は、江戸幕府初代将軍・徳川家康を神として祀る神社ですが、その壮麗な社殿、豪華絢爛な建築を前に行くと江戸幕府がいかに強大な力を持っていたかがうかがえます。江戸時代は、1603年、徳川家康が征夷大将軍に就任してから1867年の大政奉還まで、約265年間続きましたが、なぜここまで長い間続いたのでしょうか。様々な要因が挙げられると思いますが、やはり、徳川家の教えが何かあったはずなので、ガイドさんに聞いてみたところ、徳川家の家訓（家康の遺訓）として、「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし、急ぐべからず」（焦らず、一步一步着実に進むこと）というのが有名ですと教えていただきました。正に、家康が歩んできた人生をそのまま家訓として、大切にしてきたから江戸時代の繁栄が続いたのだと改めて実感しました。

ひるがえって、我が元郷小学校は、今年152年目の伝統校です。これだけ長く続いているのには、何か創立当時の教えがあるはずと思い、見渡してみると、ありました。応接室の壁に雄大な筆跡で「至誠」と掲げられていました。「至誠（しせい）」とは、江戸時代後期に備中松山（岡山県）の藩政改革を進めた山田方谷（やまだほうこく）の改革の精神が「至誠惻怛（しせいそくだつ）」でありましたが、そこからきているのではないかと思います。「至誠惻怛（しせいそくだつ）」とは、至誠（まごころ）と惻怛（いたみ悲しむ心）、つまり、誠実な心と相手をおもいやる心の大切さを表す言葉です。

今年度、本校で掲げている「いのちを大切にする あいのある学校」の中の「人のいのちを大切にする」（相手の思いや願いをわかろうとすること）とぴったり一致します。この元郷小学校で受け継がれてきたもの、まごころで相手をおもいやる心を今一度元郷小全員で確認し、何事にも誠実に取り組み、相手をおもいやり、決して、相手を悲しませたり、傷つけたりすることがないような学校生活をこれからも送っていきましょと、11月の講話朝会で子供たちに伝えていきます。ご家庭でも、相手をおもいやる心をこれからも育み続けていってください。